

第 22 回

日本血液学会北陸地方会

プログラム

当番会長 小 泉 晶 一

期 日 平成 16 年 7 月 17 日 (土) 午後 2 時より

会 場 石川県立中央病院健康教育館
(金沢市鞍月東 2 丁目 1 番地 TEL(076)237-8211)

- 一般演題は1題7分以内で御講演下さい。討論時間は3分です。
- プロジェクターは1台のみ用意します。スライドは原則として10枚以内とします。パソコンによる発表はできません。
- 全て個人会員ですので、入会希望の方は、当日受付にて改めて入会の手続きをお取り下さい。年会費は下記の通りです。なお、当日出席できない方で入会希望の方は、下記の事務局までお申し込み下さい。多数の入会をお願いいたします。

年会費 医 師 1,000円

医師以外 500円

事務局 〒920-8641 金沢市宝町13番1号

金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学内

TEL (076) 265-2275

e-mail: 3ken@med3.m.kanazawa-u.ac.jp

- 本地方会では、平成11年4月から下記のように日本血液学会認定医更新の際の点数が認められました。

参加 2点、発表(筆頭) 5点、発表(その他) 2点

14:00 開会の辞
金沢大学大学院医学系研究科 小児科 小泉晶一

14:05 座長 石川県立中央病院血液免疫内科 山口正木

1. 呼吸不全・肝脾腫にて発症し、骨髄浸潤を来たした血管内リンパ腫 (intravascular large B-cell lymphoma) の1例 (62歳、男性)

富山医科薬科大学第三内科	吉田 聖子、油野 久美、高森 映子、村上 純、平野 克治、三輪 重治、北 啓一朗、加藤 勤、高原 照美
同 第一内科	神原 健太、河岸由紀男
同 第二病理	石澤 伸
同 第一病理	高橋 博之、常山 幸一、高野 康雄

肝脾腫・低酸素血症あり。骨髄組織の血管内にCD5⁺、IgMk⁻のリンパ腫浸潤あり。血管内リンパ腫のasian variantか？

2. M蛋白血症を伴ったCD13陽性B細胞性腫瘍 (69歳、男性)

富山県立中央病院内科	寺尾ゆみ子、彼谷 裕康、黒川 敏郎、吉田 喬
金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学	奥村 廣和、中尾 眞二

末梢血に異型性を伴うリンパ球が出現、表面マーカーはCD5⁺、19⁺、20⁺、13⁻で、IgMの上昇を認めた。

3. 当院における再発・治療抵抗性非ホジキンリンパ腫に対するcladribine、mitoxantrone併用療法の検討

NTT西日本金沢病院内科	澤崎 愛子、泉谷 麻子、小谷 岳春、中条 達也
金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学	奥村 廣和

再発・治療抵抗性FL3例、MCL2例に対しcladribine、mitoxantrone併用療法を施行。治療効果はCR2例、PR2例、NC1例であった。

4. Imatinib mesylateにより血液学的寛解後、同種骨髄移植を施行した急性期慢性骨髄性白血病の1例（42歳、女性）

厚生連高岡病院内科 経田 克則、杉森 尚美

allo-BMT後早期に再発し免疫抑制剤を中止。Grade IVのGVHDを合併したが再寛解となりGVHDは軽快した。

5. NIMA相補的同胞ドナーからのRIST後生着不全を来たし、緊急非血縁臍帯血RISTにより救命し得た重症再生不良性貧血（15歳、女性）

金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学 熊野 義久、山崎 宏人、山崎 雅英、
奥村 廣和、中尾 眞二
同 医学部附属病院高密度無菌治療部 高見 昭良
同 輸血部 塩原信太郎
NTT西日本金沢病院内科 中条 達也

生着不全の原因はHPSか？再生不良性貧血に対してRISTは妥当であったか？

6. 再生不良性貧血に対して免疫抑制療法が奏効後、第7染色体異常をもつMDSを経て骨髄線維症を併発した一例（51歳、男性）

黒部市民病院内科 高松 秀行、山内 博正、荒幡 昌久、
高桜 英輔
同 病理 高川 清

再生不良性貧血の初発からモノソミー7を有するMDSを経て骨髄線維症が併発した経過を観察し得た。

7. 若年性骨髄単球性白血病（JMML）に対する造血幹細胞移植（HSCT）の問題点と展望

金沢大学大学院医学系研究科 小児科 後藤 善則、上原 貴博、犀川 太、
小泉 晶一
金沢医療センター小児科 前馬 秀昭

現在JMMLに対するHSCTの問題点として、①高率な再発率および②重篤な治療関連毒性があげられている。症例の提示を通し、これらの問題点の背景ならびにDLI・分子標的療法を含めた治療の展望について検討する。

8. 慢性NK細胞増多症の経過中にAML-M5を発症した71歳女性の1例

金沢医科大学血液免疫制御学

澤木 俊興、和野 雅治、川端 浩、
正木 康史、福島 俊洋、唐澤 博美、
下山久美子、舘 慶之、河南 崇典、
小川 法良、廣瀬 優子

(1) 以前、日血北陸地方会で発表した症例、(2) 2年を経てAML-M5を発症した、(3) NK細胞増多症との関連は？

9. 検診データから白血病発症を予測できるか

NTT西日本北陸健康管理センター 北尾 武、野上 裕子、岩田 光平

第1例：15年前から軽度の大球性貧血→AML。第2例：10年前から白血球数1万前後、血小板数40万前後→AML。第3例：CML。第4例：MDS。

10. 同種造血幹細胞移植後の重症アデノウイルス感染症にcidofovirが著効した一例 (34歳、男性)

石川県立中央病院血液免疫内科

中村 喜久、飯田 恵、前川 実生、
山口 正木、上田 幹夫

Ph-ALLの第1寛解期に同胞からPBSCTを施行。移植後118日に発症した重症アデノウイルス感染症にcidofovirが著効した。

11. ATRAによる寛解導入療法施行中に房室ブロックを生じた急性前骨髄球性白血病の一例 (47歳、男性)

福井大学医学部第一内科

荒井 肇、山内 高弘、多賀 雅浩、
岩崎 博道、浦崎 芳正、吉田 明、
河合 泰一、岸 慎治、稲井 邦博、
武村 晴行、上田 孝典

1、房室ブロックはATRAによる副作用か。2、とすればATRAによる心刺激伝導障害の頻度とその作用機序は。3、本患者における寛解導入療法の効果判定と今後の治療方針について。

15 : 55 総 会

16 : 15 教 育 講 演
司 会 金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学
中 尾 眞 二

「ヘムオキシゲナーゼ1欠損症の発見から5年を経て」

金沢大学大学院医学系研究科 小児科 小 泉 晶 一

17 : 15 閉 会 の 辞
金沢大学大学院医学系研究科 小児科 小 泉 晶 一